

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 地域の特性を生かした産業振興と人材確保のための支援について</p> <p>本市では、企業誘致が難しい時代になってきていることから、地域企業の成長により、地域経済の好循環を生み出すことが大切であると考えております。</p> <p>このような中、国においては、昨年6月に「企業立地促進法」の後継となる「地域未来投資法」が施行され、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域への経済効果が高い事業を促進することとしました。</p> <p>この法律は、本市の産業振興の方向性と一致するものであり、この制度を活用した取り組みを進めているところであります。</p> <p>また、先般、本市の酒造会社1社が岩手県から「地域経済牽引事業計画」の承認を受け、市が地方創生推進交付金を活用して、「いわて型テロワールによる地方創生プロジェクト」を展開し、企業への施設整備支援と産業を魅せる観光誘客を一体的に取り組むこととしております。</p> <p>また、本市の主要産業である養鶏業が、平成28年産「市町村別農業産出額」の養鶏、ブロイラー部門で全国1位になったところであり、成長産業であるブロイラー産業の支援とともに、裾野の広い関連産業の誘導が地域の特性を生かした産業振興につながると考えております。</p> <p>一方、地域に根付いた産業である縫製業で、高い技術力を有しているものの生産性が低く、所得向上につながっていないという課題もあることから、収益性の高い分野の市場開拓など、先を見据えた取り組みが大切であると感じております。</p> <p>雇用環境については、当地域の有効求人倍率が1倍を超えて推移するなどし、人材不足が続いており、市としては、Uターン等の促進のため大卒者等がふるさとで就職できるよう、働く場の確保に向けて、企業へ積極的な採用を依頼し、昨年度は奨学金の一部免除制度を創設したところであります。</p> <p>このように、市では、地域産業の成長に向けて、地域企業を中心とした支援制度の充実に努めておりますので、次の事項について全面的なご支援をお願い申し上げます。</p>	<p>1 地域経済牽引事業計画の承認を受けた事業者に対する支援については、国の地方創生推進交付金や補助金等による支援をはじめ、税制・金融による支援措置や各種規制の特例措置等が講じられているところです。</p> <p>県としては、これらの支援措置や県の既存の補助制度などが、事業者のニーズに即して有効に活用されるよう、事業者に対して助言を行うなど、必要な支援に努めているところであり、当面、このような各種支援措置の有効活用を努めながら、事業者のニーズや他県の取組事例等を踏まえつつ、必要な支援の在り方について研究していきます。(B)</p> <p>2 県北地域の特徴を生かしたブロイラー関連産業（食品加工業等）の二次誘導や既存事業拡大に対する支援については、平成29年度から対象業種の拡大及び補助要件の緩和を行った企業立地促進奨励事業費補助制度や、中小企業による設備導入（更新を含む。）を支援するため平成29年度に創設した県北広域産業力強化促進事業費補助制度をPRしながら取り組んでいるところであり、今後とも情報共有を密にしながら貴市と一体となって取組を一層推進していきます。(B)</p> <p>3 県では、アパレル関連産業の振興に向け、平成27年度に学校法人文化学園との連携協定を締結したほか、県北地域における「一般社団法人北いわてアパレル産業振興会」の設立など、企業間連携や人材育成を支援してきたところです。</p> <p>今後、縫製事業者の経営体質の強化に向け、学校法人文化学園の協力により、縫製事業者を対象とした技術支援指導を実施するとともに、「一般社団法人北いわてアパレル産業振興会」が実施する「北いわて仕立て屋女子会」のほか、首都圏における商談会や今年度新たに開催する経営基盤の強化に向けた研修会など、所得向上につなげる取組を支援していきます。(B)</p> <p>4 県では、雇用環境について、二戸市内の中学生・高校生に対して、二戸地域雇用開発協会と連携し、生徒に地域の産業や企業に</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A : 2 B : 4</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
	<p>関心を持ち知ってもらう「学校との連携による県内産業・企業の情報発信事業」を今年度から実施しています。</p> <p>新卒者に対しても、県内各地域に配置している就業支援員による新規高卒者の県内就職の支援に加え、新たに「人材育成・定着支援員」を配置するとともに、首都圏等の大学等を対象に「岩手U・Iターンクラブ」を6月に設置しており、大学側の協力の下、学生のU・Iターン就職の拡大を図るなど、県内就職の促進、人材の確保・育成・定着を促進していきます。(A)</p> <p>また、4月に地域産業高度化支援センターを設置し、新卒者等のものでづくり企業への就職促進と定着、U・Iターン希望者と県内ものでづくり企業とのマッチング支援等により、県全域でのものでづくり人材の育成・確保・定着の取組を強化しているところであります。(A)</p> <p>なお、地域産業のけん引役となる産業、また戦略的に振興する産業それぞれに必要な人材を確保するために、行政と産業界が協力して、大学等の学生や既卒のUIターン希望者の本県ものでづくり産業等への就業を支援する「いわて産業人材奨学金返還支援制度」を平成29年度に創設したところであり、当面、本制度の浸透による高度技術人材の確保に努めながら、県内就職を促進する施策としての効果等を見定めつつ、次なる展開について研究していきます。(B)</p>			

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 「このへ型テロワール構想」などによる広域的な観光誘導について 本市では、平成28年3月に観光分野の指針である「二戸市観光ビジョン」を策定し、それに基づいた観光地づくりに取り組んでいるところであります。 この地域は、集客力のある観光地を有していないことから、地域の特性を生かした観光誘客の取り組みが大切であると感じております。 一方で、全国や世界に誇れるものづくりや食材が多くあり、このような資源を生かした「産業を魅せる観光」がこれから目指す観光であると考えております。 具体的な例を挙げますと、漆の原木から職人が大切に漆を掻く「浄法寺漆」、地元の酒米と伏流水を原料に地元杜氏がつくる「地酒」、温泉と果樹園が調和する「金田一温泉」など、魅力ある風土や歴史の中で育まれた資源が数多く残っております。 このような資源を活かすため、本市は平成27年に「ふるさと名物応援宣言」を行っており、日本酒や漆器、二戸ならではの慣習等を物語に乗せて一体的にお客様に伝え、五感で味わう体験を提供する「このへ型テロワール事業」を構築し、産業間連携による地域経済循環の仕組みづくり、そして、国内だけでなくインバウンド観光客も含めた誘客を目指しております。 しかしながら、近年、旅行者の旅に対する目的が多様化しており、1つの地域でできる観光メニュー等には限界があるため、他の地域と連携した観光が必要であるとも考えております。 つきましては、「このへ型テロワール事業」と連携し、県北地区の魅力を生かして、広域的な観光客の誘導に向けて特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. このへ型テロワール推進事業の実施に伴い、国内旅行者や外国人観光客の誘致や周辺地域への誘導の仕組みづくりについて 2. テーマ（縄文・漆等の歴史文化や食など）に応じ、地域や県域を超えた広域観光連携の構築について 3. 新幹線の北海道延伸に伴い、北海道からの観光等の需要が見込まれることから、岩手県（県北地域）への教育旅行等の誘導について</p>	<p>1 「このへ型テロワール推進事業」については、二戸地域の魅力ある食や全国有数の生産量を誇る漆などの特色ある地域資源を活用し、県北地域への誘客拡大に取り組む事業であると承知しています。 県としても、当事業は地域経済の発展につながる新たな取組と考えており、貴市と連携を密に図りながら、広域的な観光客の誘導に取り組んでいきます。 また、先般、「カシオペア地域観光関係者全体会議」において、貴市から提案のあった商工会、観光協会、東北財務局盛岡財務事務所、地元金融機関、旅行代理店などをメンバーとする「地域資源活用研究会」を立ち上げることとしており、当研究会を通じて、観光客の周辺地域への誘導の仕組みづくりについて、検討を進めていきます。（A）</p> <p>2 県では、平泉、橋野鉄鉱山の世界遺産をはじめ御所野遺跡や沿岸地域の観光施設など、広く県内の観光地を周遊する旅行商品造成の支援をはじめ、滞在・周遊型観光の促進に取り組んでいるところです。 また、本県及び青森県、秋田県で構成する「北東北三県観光立県推進協議会」などを中心に北東北三県の広域周遊観光への誘致に取り組んでいるところです。 今後、青森県や秋田県とも連携しながら歴史・文化や食などをテーマとした広域周遊の促進を図り、国内外の観光客の誘致拡大に取り組んでいきます。（A）</p> <p>3 北海道新幹線の活用による北海道からの誘客を促進するため、引き続き、函館市、札幌市での修学旅行誘致説明会を開催するとともに、学校や旅行会社に対する訪問活動を実施するほか、県北・沿岸地域をはじめ、県内に宿泊する教育旅行へのバス運行助成を行う等、北海道からの教育旅行誘致を促進しているところです。また、道央・道南地区でのプロモーションの実施やイベントへの参加等を通じ、教育旅行はもとより、広く北海道から本県への観光客の誘致促進について継続して取り組んでいきます。（A）</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A：3</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 金田一温泉周辺地区における新しいまちづくりへの支援について</p> <p>当市は、公共と民間がそれぞれの役割を担いながら、地域経済の好循環を生み出し持続可能な地域をつくることを目的に、公民連携まち再生事業に取り組んでおります。</p> <p>本年6月には「二戸市公民連携基本計画」を策定し、公民連携における基本的な理念、事業の推進方針などについて決めました。</p> <p>本計画においては、重点的に公民連携推進区域として、金田一温泉周辺地区、九戸城周辺地区、天台寺周辺地区の3地区を設定しており、各地区の地域課題の解決と、地域資源を生かした新しいまちづくりについて、方向性を示しております。</p> <p>その中で、先行して事業を行う金田一温泉周辺地区は、金田一温泉センターの建て替えに合わせ、金田一近隣公園を中心とするエリアの地域資源を時代に合わせて再構築し、新しい産業を形成する「稼ぐ都市公園」づくりを目指して、国のPark-PFI事業を活用し、事業を推進しております。</p> <p>本事業の推進に際しましては、エリア周辺のまちづくりとともに、狭あいな道路の拡幅などの基盤整備や、当地区の産業を支える農業支援が必要であると考えております。</p> <p>つきましては、住民や来訪者にとって、豊かな日常を提供できるまちへの再生のため、次のことについて特段のご配慮をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 金田一温泉周辺地区への、来訪者や住民のアクセスがより便利になり、安全を確保するため、一般県道金田一温泉線の改良整備について</p> <p>2. 公民連携まち再生事業の推進に係る、Park-PFI事業等の活用における技術的助言について</p>	<p>1. 一般県道金田一温泉（きんたいちおんせん）線 当該区間については、貴市のまちづくり計画等を踏まえるとともに、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p> <p>2. Park-PFI事業等の活用における技術的助言 貴市が整備を進めている金田一近隣公園におけるPark-PFI事業等の活用については、平成30年度からの社会資本整備総合交付金事業(官民連携型賑わい拠点創出事業)実施に向けた国への要望等に関して、助言や情報提供等の支援を行ってきたところです。 今後も事業推進が図られるよう、引き続き貴市と共に取り組んで参ります。 (A)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A : 1 C : 1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 金田一温泉周辺地区における新しいまちづくりへの支援について</p> <p>当市は、公共と民間がそれぞれの役割を担いながら、地域経済の好循環を生み出し持続可能な地域をつくることを目的に、公民連携まち再生事業に取り組んでおります。</p> <p>本年6月には「二戸市公民連携基本計画」を策定し、公民連携における基本的な理念、事業の推進方針などについて決めました。</p> <p>本計画においては、重点的に公民連携推進区域として、金田一温泉周辺地区、九戸城周辺地区、天台寺周辺地区の3地区を設定しており、各地区の地域課題の解決と、地域資源を生かした新しいまちづくりについて、方向性を示しております。</p> <p>その中で、先行して事業を行う金田一温泉周辺地区は、金田一温泉センターの建て替えに合わせ、金田一近隣公園を中心とするエリアの地域資源を時代に合わせて再構築し、新しい産業を形成する「稼ぐ都市公園」づくりを目指して、国のPark-PFI事業を活用し、事業を推進しております。</p> <p>本事業の推進に際しましては、エリア周辺のまちづくりとともに、狭あいな道路の拡幅などの基盤整備や、当地区の産業を支える農業支援が必要であると考えております。</p> <p>つきましては、住民や来訪者にとって、豊かな日常を提供できるまちへの再生のため、次のことについて特段のご配慮をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>3. 金田一温泉周辺地区の産業の核である、リンゴをはじめとするブランド果樹の生産振興における技術的支援の充実について</p>	<p>3 金田一温泉周辺地区では、糖度・蜜入りに優れたブランドりんご「冬恋」の生産や、大玉品種「チャンドラー」をはじめとしたブルーベリーの摘み取り農園が開業されるなど、果樹が重要な地域資源となっています。</p> <p>県では、これらの果樹の生産振興を図るため、りんごの糖度・蜜入り向上やブルーベリーの大玉生産に向けた栽培管理指導などを行ってきたほか、本年度から、りんごの選果データを活用した冬恋割合の向上に取り組んでいるところです。</p> <p>今後も、金田一温泉周辺地区の営農の核として期待されるブランド果樹の一層の振興に向けて、必要な技術的支援を継続していきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B: 1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 地域の特性を生かした農畜産業への支援について            農業・農村を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化の進行、耕作放棄地や低利用農地等の拡大等、農業生産構造の脆弱化が進んでおります。            また、今年度から米の生産調整が廃止され、これまでの“守られた農業”から“攻めの農業”への大幅な転換が求められています。            本市では、川又地区をはじめ、福田、山内地区において県営基盤整備事業を展開しておりますが、これらの地区を市内の先駆的集落営農モデルとして確立し、他の地域へと波及させていく必要があります。            加えて、地元での酒米栽培を推進する酒造企業が、世界的なコンテストにおいて1位を獲得したことも後押しとなり、酒蔵のみならず酒米田への来訪が増え、コメづくりから酒づくりまでの一貫した体験とストーリーの発信の重要性を実感しております。            また、近年では冬場の新しい品目として、ホワイトアスパラガスの栽培や、「はるか」に次ぐ紅い新品種の開発、これまで未利用であった種鶏（肉用親鶏）のブランド化に地元企業と一緒に取り組む若者が出てきており、二戸の新たな営農スタイルや特産品として期待されています。            このような状況の下、本市の特性を生かした農畜産業推進のため、次の事項に係る支援について、特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 若者の農業定着に向けた技術・経営力向上のため、二戸農業改良普及センターのさらなる体制充実による支援ならびに、連携体制の強化</p>	<p>1 若者の農業定着のためには農家子弟、新規参入者とも早期の技術習得と所得確保が重要であります。農業改良普及センターでは、二戸地方農林水産振興協議会が策定した「二戸地方農業担い手育成プラン」に基づき、研修会による技術・経営能力の習得や巡回指導などに加え、普及センターにおける重点支援対象に位置づけ、就農後の支援体制を充実強化しているところです。(A)            今後とも、関係機関との連携を強化しながら、経営感覚に優れた農業者の育成を最重点に取り組みを進めるとともに、農業青年クラブなどとの連携により早期自立を促していきたいと考えています。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>A : 1 B : 1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 地域の特性を生かした農畜産業への支援について            農業・農村を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化の進行、耕作放棄地や低利用農地等の拡大等、農業生産構造の脆弱化が進んでおります。            また、今年度から米の生産調整が廃止され、これまでの“守られた農業”から“攻めの農業”への大幅な転換が求められています。            本市では、川又地区をはじめ、福田、山内地区において県営基盤整備事業を展開しておりますが、これらの地区を市内の先駆的集落営農モデルとして確立し、他の地域へと波及させていく必要があります。            加えて、地元での酒米栽培を推進する酒造企業が、世界的なコンテストにおいて1位を獲得したことも後押しとなり、酒蔵のみならず酒米田への来訪が増え、コメづくりから酒づくりまでの一貫した体験とストーリーの発信の重要性を実感しております。            また、近年では冬場の新しい品目として、ホワイトアスパラガスの栽培や、「はるか」に次ぐ紅い新品種の開発、これまで未利用であった種鶏（肉用親鶏）のブランド化に地元企業と一緒に取り組む若者が出てきており、二戸の新たな営農スタイルや特産品として期待されています。            このような状況の下、本市の特性を生かした農畜産業推進のため、次の事項に係る支援について、特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>2. 冬期間の所得が確保できる営農モデルの確立と団地化推進への技術・資金支援</p>	<p>2 営農モデルの確立については、積極的に他地域の事例等を収集するとともに、既存品目の組み合わせや新品目・新作型の導入などを検討し、県北地域に適した営農モデルの確立に向けて、関係機関団体と連携しながら取り組んでいきます。(B)            団地化推進については、大面積を省力的に管理するための技術導入や地理情報システムを活用した圃場毎の栽培履歴管理などの技術導入について支援するとともに、市と連携し、今年度新たに創設したいわて型野菜トップモデル産地創造事業や既存の補助事業を活用し大規模なハウス団地の整備の支援に取り組んでいきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B：2</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 地域の特性を生かした農畜産業への支援について            農業・農村を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化の進行、耕作放棄地や低利用農地等の拡大等、農業生産構造の脆弱化が進んでおります。            また、今年度から米の生産調整が廃止され、これまでの“守られた農業”から“攻めの農業”への大幅な転換が求められています。            本市では、川又地区をはじめ、福田、山内地区において県営基盤整備事業を展開しておりますが、これらの地区を市内の先駆的集落営農モデルとして確立し、他の地域へと波及させていく必要があります。            加えて、地元での酒米栽培を推進する酒造企業が、世界的なコンテストにおいて1位を獲得したことも後押しとなり、酒蔵のみならず酒米田への来訪が増え、コメづくりから酒づくりまでの一貫した体験とストーリーの発信の重要性を実感しております。            また、近年では冬場の新しい品目として、ホワイトアスパラガスの栽培や、「はるか」に次ぐ紅い新品種の開発、これまで未利用であった種鶏（肉用親鶏）のブランド化に地元企業と一緒に取り組む若者が出てきており、二戸の新たな営農スタイルや特産品として期待されています。            このような状況の下、本市の特性を生かした農畜産業推進のため、次の事項に係る支援について、特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>3. 基盤整備に連動した農地の利用や、“地域みんなで稼ぐ農村”の集落営農モデルづくりへの指導・支援</p>	<p>3 基盤整備事業実施地区における農地の利用については、水稲・畑作物等の土地利用型作物のほか、園芸作物を組合せた営農を推進するなど、水田農業における担い手の経営確立を重点的に支援する必要があります。            このため県では、川又地区をはじめとした事業実施地区について、高収益作物の導入検討を支援するとともに、地域で生産された農作物を原料とした農産加工品製造・販売に取り組む県内先進事例の視察を通じ、情報提供を行っています。            また、地域農業の活力維持のためには、地域の多くの農業者の参画が必要なことから、県では小規模・兼業農家も参加した集落営農や園芸作物の産地づくり、地域の多彩な資源を活用した加工・販売などの取組を支援し、“貴市がめざす”地域みんなで稼ぐ農村”の実現に向けて連携して取組んでいきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B：1</p>



二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 地域の特性を生かした農畜産業への支援について            農業・農村を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化の進行、耕作放棄地や低利用農地等の拡大等、農業生産構造の脆弱化が進んでおります。            また、今年度から米の生産調整が廃止され、これまでの“守られた農業”から“攻めの農業”への大幅な転換が求められています。            本市では、川又地区をはじめ、福田、山内地区において県営基盤整備事業を展開しておりますが、これらの地区を市内の先駆的集落営農モデルとして確立し、他の地域へと波及させていく必要があります。            加えて、地元での酒米栽培を推進する酒造企業が、世界的なコンテストにおいて1位を獲得したことも後押しとなり、酒蔵のみならず酒米田への来訪が増え、コメづくりから酒づくりまでの一貫した体験とストーリーの発信の重要性を実感しております。            また、近年では冬場の新しい品目として、ホワイトアスパラガスの栽培や、「はるか」に次ぐ紅い新品種の開発、これまで未利用であった種鶏（肉用親鶏）のブランド化に地元企業と一緒に取り組む若者が出てきており、二戸の新たな営農スタイルや特産品として期待されています。            このような状況の下、本市の特性を生かした農畜産業推進のため、次の事項に係る支援について、特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>4. 県北地域の米販売戦略ビジョンの策定と流通・販売支援</p>	<p>4 県では、これまでの取組の強化に加えて、平成30年産からの米政策の見直しも見据え、平成30年2月に、新たな「いわての美味しいお米生産・販売戦略」を策定し、関係者一丸となった取組を展開することとしております。            この戦略では、実需者ニーズに対応した品種配置や生産コストの低減に加え、県産米のさらなる評価・知名度向上、実需との取引拡大等を柱に据えております。            本戦略を踏まえ、県北地域については、実需者から要望の高い主食用米の「いわてっこ」、「きらほ」や酒造好適米の「ぎんおとめ」の安定した生産供給の体制づくりや県北地域に適した主食用品種の調査を進める他、事前契約の拡大支援に取り組むこととしております。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B：1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 地域の特性を生かした農畜産業への支援について            農業・農村を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化の進行、耕作放棄地や低利用農地等の拡大等、農業生産構造の脆弱化が進んでおります。            また、今年度から米の生産調整が廃止され、これまでの“守られた農業”から“攻めの農業”への大幅な転換が求められています。            本市では、川又地区をはじめ、福田、山内地区において県営基盤整備事業を展開しておりますが、これらの地区を市内の先駆的集落営農モデルとして確立し、他の地域へと波及させていく必要があります。            加えて、地元での酒米栽培を推進する酒造企業が、世界的なコンテストにおいて1位を獲得したことも後押しとなり、酒蔵のみならず酒米田への来訪が増え、コメづくりから酒づくりまでの一貫した体験とストーリーの発信の重要性を実感しております。            また、近年では冬場の新しい品目として、ホワイトアスパラガスの栽培や、「はるか」に次ぐ紅い新品種の開発、これまで未利用であった種鶏（肉用親鶏）のブランド化に地元企業と一緒に取り組む若者が出てきており、二戸の新たな営農スタイルや特産品として期待されています。            このような状況の下、本市の特性を生かした農畜産業推進のため、次の事項に係る支援について、特段のご高配をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>5. 県北地域の食産業振興のため、一次から三次産業まで一体的な地域産業振興につながる仕組みづくりへの部局横断的な支援体制の構築</p>	<p>県では、本県の食産業を高い付加価値及び生産性を持つ総合産業として、より一層育成するため、各分野の専門家を「岩手県産業創造アドバイザー」として派遣し、県内食品製造業者等に対して助言・指導を実施しています。            また、生産者の収益力を強化するための生産から加工、販売事業に進出する6次産業化の取組や、農林水産業と関連産業が連携して新たなビジネスを生み出す農商工連携の取組を推進するため、食品流通等の専門家を「食のプロフェッショナルチームアドバイザー」として派遣し、県内の生産者や食関連事業者に対する指導・助言も行っています。            これらの取組に加え、県内の食品製造業者や農林漁業者等が全国の流通関係者や外食事業者等と直接商談をし、市場のニーズ把握や、商品力の向上、販路の拡大等を図るため、県内外で「いわて食の商談会」を開催しているほか、昨年度には「いわて希望応援ファンド」を創設し、地域資源を活用した新商品の開発など、県内中小企業者等の新たな事業活動に係る取組を支援しています。            一次から三次産業まで一体的な地域産業のさらなる振興に向け、部局横断的な支援体制の下、貴市とも緊密に連携を図りながら、引き続き様々な取組を進めていきます。（A）</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A：1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 岩手県が管理する道路の整備について 市内の県管理の道路には狭隘な区間や急カーブの区間、歩道の無い区間も多数有ります。新幹線を利用した通勤者の増加による交通量の増大、また児童や高齢者の交通弱者の安全確保のため道路改良及び歩道設置が求められています。これらのことから、市民の安全・安心の確保のため下記路線の整備について特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>また、シビックコア地区の利用、九戸城へのアクセス、商業施設の利用など兩岸の街並みに連続性を持たせるため都市計画道路荒瀬上田面線（一般県道二戸一戸線）と市道枋ノ木市民会館線を結ぶ、1級河川馬淵川を横断する橋梁整備をはじめ、多額の事業費が必要となる道路の新設を計画しております。このため、都市計画道路荒瀬上田面線等の整備について特段のご高配を賜りますよう併せてお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 主要地方道二戸田子線 下斗米門松地区から上斗米小平地区間約1.4キロメートルの歩道の早期完成</p> <p>2. 一般県道二戸軽米線 長嶺交差点から約460メートルの狭隘区間の早期完成、福岡字妻ノ神地区の狭隘区間の早期解消</p> <p>3. 都市計画道路荒瀬上田面線（一般県道二戸一戸線） 船場地区から岩谷橋までの歩道整備及び岩谷橋工区の早期完成</p> <p>4. 主要地方道二戸五日市線 柿木平工区から八幡平市境までの改良整備</p> <p>5. 主要地方道二戸九戸線 白鳥地区内約1.4キロメートルの改良整備及び矢神地区内約300メートルの歩道整備</p> <p>6. 一般県道上斗米金田一線 牛間木地区から金田一川地区間約3.3キロメートルの狭隘区間の改良整備</p> <p>7. 一般県道道前浄法寺線</p>	<p>1 主要地方道二戸田子（このへたっこ）線 ○下斗米（しもとまい）門松（かどまつ）地区から上斗米（かみとまい）小平（こびら）地区間約1.4キロメートルの歩道の早期完成 門松地区から小平地区の歩道整備については、平成26年度に事業着手し、今年度も工事を実施しています。今後とも地元の御協力をいただきながら、整備推進に努めていきます。（A）</p> <p>2 一般県道二戸軽米（このへかるまい）線 ○長嶺地区長嶺交差点から約460メートルの狭隘区間の早期完成 長嶺（ながみね）地区については、平成25年度より事業着手し、平成30年度も引き続き道路改良工事を進めています。今後も早期に完成できるよう、引き続き整備推進に努めていきます。（A） ○福岡（ふくおか）字妻ノ神（さいのかみ）地区の狭隘区間の早期解消 妻ノ神地区については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。（C）</p> <p>3 都市計画道路荒瀬上田面（あらせかみたおもて）線（一般県道二戸一戸線） 船場地区から岩谷橋までの歩道整備及び岩谷橋工区の早期完成 ○船場（ふなば）地区から岩谷橋（いわやばし）までの歩道整備 歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性を考慮しながら整備を進めている状況です。 御要望の区間については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。（C） ○岩谷橋（いわやばし）工区の早期完成 岩谷橋の架け替えについては、平成22年度より事業着手し、平成30年度は、橋梁下部工及び仮橋工事を進め、橋梁上部工を発注する予定です。今後、本格的な工事の実施にあたり、工事中の通行規制や仮橋の通行等地域の皆様の御理解が必要となるため、貴</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A：3 C：7</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>細田地区から馬洗場地区間約2.5キロメートルの狭隘区間及び線形不良の改良整備</p>	<p>市のさらなる御協力を引き続きお願いします。(A)</p> <p>4 主要地方道二戸五日市（にのへいつかいち）線            ○柿ノ木平（かきのきたいら）地区から八幡平市（はちまんたいし）までの改良整備            当該区間については、現在、どのような整備が可能か現地の状況把握に努めているところであり、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p> <p>5 主要地方道二戸九戸（にのへくのへ）線            白鳥地区内約1.4キロメートルの改良整備及び矢神地区内約300メートルの歩道整備            ○白鳥（しらとり）地区の改良整備            白鳥地区は、前後区間に比べて幅員が狭く、歩道もないことから整備の必要性を認識しています。改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、一部計画に用地課題もあり、早期の事業化は難しい状況です。(C)            ○矢神（やがみ）地区の歩道整備            歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性を考慮しながら整備を進めている状況です。            矢神地区については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。(C)</p> <p>6 一般県道上斗米金田一（かみとまいきんたいち）線            ○牛間木（うしまぎ）地区から金田一川（きんだいちがわ）地区間約3.3キロメートルの狭隘区間の改良整備            当該区間については、1車線の未改良区間で幅員が狭く、円滑で安全な通行に課題があると認識しています。平成27年度より、地形図作成や概略検討を行っています。改良整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p> <p>7 一般県道道前浄法寺（どうぜんじょうぼうじ）線            ○細田（ほそだ）地区から馬洗場（うまあらいば）地区間約2.5キロメートルの狭隘区間及び線形不良の改良整備            当該区間については、交通量の推移や公共事業予算の動向を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p>			

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>6 岩手県が管理する河川の整備について            一級河川馬淵川水系馬淵川及び安比川につきましては、異常気象による洪水等により、家屋への浸水、農地の冠水等、大きな被害が発生しているところであります。            このことから、岩手県におきましては、平成26年度に安比川を水防警報河川の指定、平成27年度に一級河川馬淵川水系馬淵川上流圏域河川整備計画の策定、平成29年度には、馬淵川米代川新井田川圏域洪水減災対策協議会を創設するとともに、平成28年度からは、馬淵川上流圏域河川整備計画に基づき、整備に着手するなど、ハード、ソフト両面での対策を講じていただいていることに対し、感謝を申し上げます。            しかしながら同整備計画では、整備箇所の多さなどから相応の事業費を要することになり、計画対象期間が河川整備計画策定から概ね30年間とされております。            つきましては、河川整備は、市民の生命と財産を守ることに直結する事業でありますので、早期整備について特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>馬淵川(まべちがわ) や安比川(あっぴがわ) については、平成25年9月洪水を含む過去の大きな洪水の検証を行い、対象区間について既往最大洪水による家屋等の浸水被害を防止することを目標として、馬淵川水系馬淵川上流圏域の河川整備計画が平成27年11月に認可されたところです。            また、馬淵川については、平成23年の台風15号の氾濫被害に対応した河道掘削や家屋浸水被害の大きかった石切所(いしきりどころ) 地区において、平成26年度までに河川改修を実施したところであり、平成28年度から堀野(ほりの) 地区において、用地補償や河道掘削工事を実施しています。安比川については、平成25年の台風18号により被災した箇所において災害復旧工事を実施したところです。今後も早期の整備に努めていきます。            なお、これらのハード対策に加え、平成29年5月に馬淵川米代川(よねしろがわ) 新井田川(にいだがわ) 圏域洪水減災対策協議会が設立され、ホットラインの運用、タイムライン導入、水位周知河川の拡大等のソフト対策についても取り組んでおり、今年度はさらに危機管理型水位計の設置を進めます。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A : 1</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 地域医療の充実及び医師確保、病床数の維持について</p> <p>県立二戸病院は、地域における中核的診療施設として、地域住民の医療の拠点となっており、市が実施する検診結果に基づく精密検査や予防接種の実施などにも多大なご協力をいただいております。</p> <p>しかし、慢性的な医師不足から、4診療科において常勤医師が不在となっており、その他の診療科においても、医師1人当たりの診察及び検査量の増加が懸念されております。</p> <p>また、平成30年度の病床数は、平成27年度に比べ35床減となっております。</p> <p>県立一戸病院は、北陽病院との統合以来、県北地域の精神疾患患者を一手に引き受けてきました。本県は自殺率が全国で二番目に高く、特に二戸地域は県内でも自殺率が高い地域となっております。これまでも精神科医の協力のもと、精神保健、自殺予防対策及び認知症対策を行ってきました。</p> <p>今後、ますます精神科医の役割は重要になりますが、県立一戸病院の精神科医は、平成13年の8名をピークに年々減り続け、現在は5名までに減少しております。</p> <p>つきましては、岩手県地域医療構想で予定されている病床数の削減は、在宅医療や介護等の体制整備が図られた後としていただくとともに、二戸地域にとって県立病院は地域医療の中核であり、その機能強化が強く求められていることから、地域の安全・安心の確保と充実を図るため、県立二戸病院の不在診療科の常勤医師の確保及び病床数の維持と、県立一戸病院の常勤精神科医師の確保について特段の御高配をお願い申し上げます。</p>	<p>地域医療構想で示す必要病床数は、将来のあるべき医療提供体制を検討するための方向性を示すものであり、現在ある病床をそれに向けて直ちに削減するものではありません。</p> <p>地域医療構想の推進にあたっては、地域に設置した地域医療構想調整会議における関係者の協議に基づき、医療機関の自主的な取組を基本として、病床機能や在宅医療等の体制整備に取り組むことで将来のあるべき医療提供体制を実現することを目指すこととしており、要望の内容も参考に、地域医療構想調整会議で議論を進めていきます。(B)</p> <p>県立二戸病院の病床数については、患者動向や医療ニーズ等を考慮しながら設定しているものですが、二戸地域の「協議の場」の検討状況も踏まえながら対応していく必要があると考えています。(B)</p> <p>また、二戸病院において、常勤医師が不在となっている呼吸器内科、皮膚科等の診療科への常勤医師の配置については、派遣元の大学においても医師の絶対数が不足していることから、非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>県立一戸病院の精神科の常勤医師確保については、平成29年4月から精神科の常勤医師を1名増員し、関係大学の精神科医局を訪問するなど、さらなる医師確保に努めているところですが、関係大学においても医師の絶対数が不足しており、非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>医師の不足については県においても深刻に受け止めているところであり、引き続き、関係大学等に医師の派遣を強く要請していくほか、即戦力となる医師の招聘や臨床研修医の受入れ、奨学金養成医師の計画的な配置等により常勤医師の確保に取り組んでいきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B：3</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>8 乳幼児等医療費助成に対する補助拡大と一律化について</p> <p>市は、乳幼児や子どもの適正な医療の確保を図るため、昨年8月から対象を中学生まで拡大し、単独事業により医療費助成を実施しているところです。</p> <p>しかしながら、県内の市町村では助成対象や助成額が異なっており、居住地により助成に差が出ている状況です。</p> <p>本来、医療費助成は、県内どこの地域においても同じ水準のサービスが受けられるべきであることから、県内市町村の医療費助成が統一されるよう、市町村に対する補助を拡大していただきますようお願い申し上げます。</p> <p>また、乳幼児や子どもの医療費助成について、全国どこの地域でも同等な水準となるよう、国において全国一律の医療費助成制度を創設するよう引き続き要望していただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>県では、人口減少対策としての総合的な子育て支援施策の一環として、厳しい財政状況にはありますが、市町村等と協議のうえ、助成対象を小学校卒業の入院まで拡大してきたほか、2019年8月からは、現物給付の対象を小学生まで拡大することとしたところです。</p> <p>対象者の範囲を更に拡充した場合、多額の財源を確保する必要があり、本県では、県立病院等事業会計負担金が多額になっているという事情もあることから、今後、国の動向を注視しながら、県の医療・福祉政策全体の中で、総合的に検討する必要があると考えています。(B)</p> <p>子どもの医療費助成は、本来、自治体の財政力の差などによらず、全国どこの地域においても同等な水準で行われるべきであり、これまで、県の政府予算提言・要望において、全国一律の制度を創設するよう要望してきたところです。</p> <p>全国知事会からも同様の要請を行うこととしており、今後とも様々な機会を通じて国に対する働きかけを行っていきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B : 2</p>

二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>9 リハビリテーション医療施設の整備について</p> <p>岩手県は脳卒中での死亡率が全国でも高く、その中でも二戸地域は特に高い地域となっていることから、二戸市ではこれまで生活習慣病の予防や、肥満防止を重点項目とし、保健活動を行ってきました。</p> <p>今年度は特に、特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率の向上の取り組みを強化するとともに、推定塩分摂取量測定を実施するなど、脳卒中等予防対策に力を入れているところです。</p> <p>また、ケガなどによる寝たきりを防ぐため、若い世代からの運動習慣の定着や、運動器の機能低下による転倒防止、いわゆるロコモティブシンドローム予防にも、いち早く取り組んできております。</p> <p>これらの病気やケガを予防する取り組みの一方で、脳卒中の発症や転倒等によるケガをした方々は、県立病院に入院し、急性期のリハビリテーションを受けております。</p> <p>しかし、県北地域に回復期以降のリハビリテーションを行っている病院が無いため、盛岡地域や八戸地域の病院に転院、または通院をしなければならないことから、本人やご家族の負担軽減が求められております。</p> <p>このような中、一部の介護施設による訪問リハビリテーションが行われておりますが、受診希望者が多いため、希望する回数のリハビリを受けられない状況にあります。</p> <p>つきましては、二戸二次保健医療圏に急性期以降のリハビリテーションを行う医療施設の整備について、特段の御高配をお願い申し上げます。</p>	<p>今後の高齢化の進展等に伴う医療需要の変化に対応するため、急性期や回復期の医療から在宅医療に至るまで、切れ目のない良質な医療提供体制の構築が求められていることから、県では平成28年3月に、地域における将来のあるべき医療提供体制を構築することを目的とした、岩手県地域医療構想を策定しました。</p> <p>構想の実現に向けては、構想区域ごとに医療・介護関係者、市町村や医療保険者等を構成員として設置した地域医療構想調整会議において、地域で不足する病床機能への転換や在宅医療の体制整備などについて協議しながら取り組んでいくこととしております。</p> <p>二戸地域における急性期以降のリハビリテーション機能についても、調整会議における協議の内容を踏まえながら、適切に整備されるよう「地域医療介護総合確保基金」を活用した補助等により支援していきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B：1</p>



二戸市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>10 小中高等部からなる独立校としての特別支援学校の設置について</p> <p>二戸市への特別支援学校分教室の設置につきましては、平成20年度には県立盛岡みたけ支援学校の小学部が市立石切所小学校内に、平成25年度には中学部が市立福岡中学校内に、平成28年度には高等部が県立福岡工業高等学校内にそれぞれ開設され、小学部から高等部までの間、市内において学ぶことができる環境が整い、保護者等も大いに安心しております。</p> <p>しかしながら、分教室に通う児童生徒数は年々増加し、学習スペースが手狭になるなど併設校の課題が顕在化してきております。平成30年度の在籍児童数は小学部24名、中学部8名、高等部18名と、開設当時の2倍から5倍となっており、限られたスペースを工夫しながら学習環境を確保し、児童生徒が学んでいる状況にあります。</p> <p>この課題を解消し、特別支援教育の充実を図るためには、併設校制ではなく、独立した支援学校の設置が必要であると考えます。</p> <p>つきましては、小学部から高等部までの一貫した教育を受けることができる環境を整え、障がいを持つ児童生徒の自立に向けた教育の充実はもちろんのこと、保護者の期待に応えるため、小中高等部からなる独立校を、二戸市に設置することについて、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>二戸地区における特別支援教育の整備については、国のインクルーシブ教育システム構築の動向を踏まえ、居住地域での教育の保障を図るため、小学部、中学部、高等部と順次、分教室を設置してきました。</p> <p>また、分教室に通う児童生徒数の増加に対して教室数を増設する等、学習環境の確保にも取り組んできたところです。各分教室においては、日常的かつ継続的な交流及び共同学習を通じて、「共に学び、共に育つ」教育が醸成されていると捉えています。</p> <p>特別支援教育に対する地域の理解も進み、特別支援学校に対するセンター的機能への要望が強まってきています。今後も広範囲な県北地区の特別支援教育の拠点となり、組織的な対応を進めるため、二戸地区の特別支援学校の在り方や方向性を検討していきます。(B)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>県北教育事務所</p>	<p>B：1</p>